ちがさきバリアフリーニュース

Vol．2

平成 26 年 12 月 26 日　茅ヶ崎市 都市部 都市政策課

11 月 30 日「バリアフリー社会を考える研修会」を実施しました！

日常生活や災害時に、困ること・不安に思うことなどを考えるきっかけとして、保健福祉部障害福祉課・高齢福祉介護課と共同で、市民が自由に参加できる研修会を実施し、５６名の参加者がバリアフリーに関する理解を深めるとともに、市民一人ひとりのバリアフリーの実践に向けた意見交換を行いました。

○当日のながれ

１部：講話・意見交換

障害のある立場の方々から「**日常生活で困っていること**」や「**災害時に想定される不安なこと**」について講話をいただき、意見交換を行いました。

２部：班別ワークショップ

班に分かれて以下のテーマで話し合いをしました。

①**１部を通じて気づいたこと（知らなかったこと）**
②**自分でできること**
③**一人ではできないが、誰かと協力するとできそうなこと（地域でできること）**

３部：発表

班別ワークショップの発表を行い、各班で出た意見や知恵を共有しました。

班別ワークショップの成果　→

１部：講話・意見交換　での主なご意見

茅ヶ崎市身体障害者福祉協会　村上禮之助さん
・雨の日の外出は、杖が滑るので怖いです。
・駅のエスカレーターで『杖がジャマ』と怒られたことがあり、非常にショックでした。

茅ヶ崎市身体障害者福祉協会　豊嶋太一さん
・家探しの際、いくつもの不動産に門前払いされてしまい、認知度の低さを実感しました。
・『伝える努力』と『知ろうとする努力』、お互いが歩み寄ることが重要です。

茅ヶ崎市聴覚障害者協会　湊里香さん
・視覚情報しか受取れないため、病院受付や電車遅延などの案内が音声だけではわかりません。
・聴覚障害者が違う言語で生活していることを、小中学生に伝える取り組みをしています。

茅ヶ崎市視覚障害者福祉協会　畠山和子さん
・誘導ブロックや点字、音声案内があると助かります。弱視なので暗いのは苦手です。
・災害時は近所の方の支援が必要です。顔見知りになるため防災訓練には積極的に参加します。

茅ヶ崎手をつなぐ育成会　増藤純さん
・駅から目的地までの行き方をきちんと確認してから外出します。
・会社～家は歩くと３時間かかり、災害時、帰宅困難になった時のことを考えると不安です。

産業能率大学　斉藤先生
・外出しやすいまちづくりがバリアフリー社会の大きなテーマです。

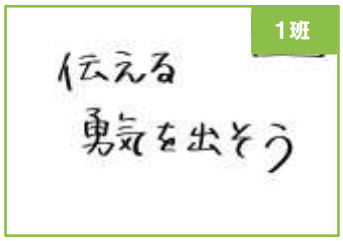
文教大学　海津先生
・市民一人ひとりの意識を変え、障害への理解を深めることが大切です。

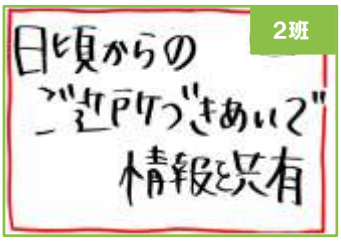
神奈川県立保健福祉大学　藤井先生
・障害者を地域で支えあう仕組みが必要です。

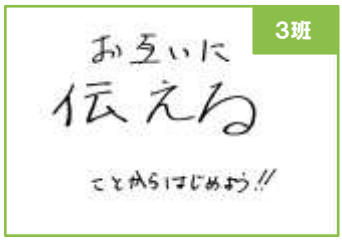
2部：班別ワークショップ と 3部：発表 の結果

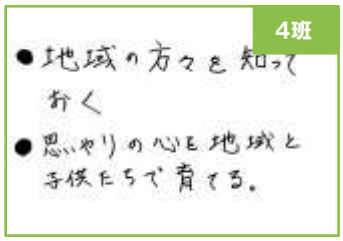
○バリアフリー実践のキーワード

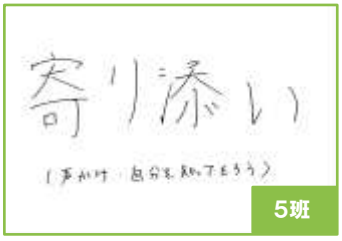
各班で話し合いの結果、『バリアフリー実践のキーワード』を決めました。多くの班で、**互いに理解し合う努力が重要**であるといった意見がでました。

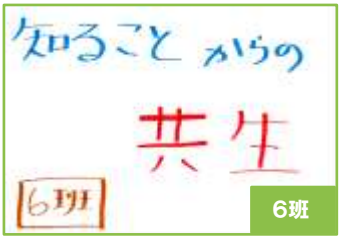


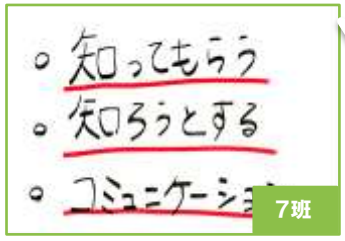












○ワークショップでの主なご意見

＜自分でできること＞

共通

- 障害を知ろうとする努力をする。
- 思いやりや気遣いが重要。
- 積極的にコミュニケーションをとるようにする。
- 挨拶や声掛けが大切。
- 災害時に支援が必要な人が周りにいないか、事前に確認しておく。

視覚障害のある方には・・・

- 肩に手を触れてから声かけをする。

聴覚障害のある方には・・・

- 手話を覚える。
- 筆談の代わりに携帯を使ってコミュニケーションをとる。

障害のある方からのご意見＜共通＞

- 自分の障害について積極的に伝え、理解してもらう努力をする。
- 困ったときは勇気を出して周りの人に伝える。
- 災害など、もしもの時の行動を想定しておく。

聴覚障害のある方のご意見

- 災害時には笛を吹いて居場所を知らせる。

＜一人ではできないが、誰かと協力するとできそうなこと（地域でできること）＞

共通

- 地域のイベント等を通じて、互いの顔を覚える。
- 小・中学校でバリアフリー教育を行い、小さいころから障害者について知る機会を設ける。
- 知的・精神・発達障害の情報が少ないので出前講座等で充実する。
- 誘導補助をするボランティアを募り、障害のある方の移動を支援する。
- 災害時支援制度の充実など、自治体や民生委員等との連携が必要である。

聴覚障害のある方には・・・

- 手話講習会を開催する。
- 手話サークルとボランティアが協力して活動を展開する。

【担当】茅ヶ崎市　都市部　都市政策課
電話：0467-82-1111（代表）　内線 2504　　ファックス：0467-57-8377